

○參照第一

曩ニ囑託員山崎直方ノ調査ニ係ル深井地質第一回報告ヲ提

出シ載セテ本會報告第貳號ニアリ今又其第二回報告ニ接シ

タレハ乃チ之ヲ提出ス

明治三十年六月

委員 理學博士 小藤 文次郎

震災豫防調査會長理學博士菊池大麓殿

深井地質第二回報告

震災豫防調査會囑託

大學院學生理學士 山崎 直方

震災豫防調査會ニ於ケル深井穿鑿ノ事業ハ着々其歩ヲ進メテ今ヤ予ノ手ニ領收セシ最後ノ標本ハ實ニ地下一千三百四十八尺ノ深處ヨリ撈取セル粘土ナリ曩ニ其深サノ二百尺ニ達スルヤ予ハ本會ノ命ヲ奉シテ其撈取セル標品ヲ鑑識シ其地質ヲ詳述シ深井地質第一回報告トシテ之ヲ本會ニ提出シ載セテ本會報告第二號ニアリ今ヤ茲ニ其稿ヲ嗣キ二百尺以下一千三百四十八尺ニ至ルノ地質ヲ縷述シ第二回報告トナス

二百尺以上ノ岩石ハ既ニ第一回報告ニ盡クセリ今直ニ進テ二百尺以下ノ深處ヨリ得タル岩石ニ就キ逐次記載スベシ

二百尺ヨリ二百四尺ニ至ル 粘土質ヲ含有セル砂、乾燥スレバ黝色ヲ呈ス

二百尺ヨリ二百八尺五寸ニ至ル 黝色細粒ノ砂ニシテ微シク粘土質ヲ交ユ、砂粒ヲナスモノハ大抵太古紀ノ硅岩角岩粘板岩ノ粉礫セルモノニシテ石英粒、白雲母ノ小片ヲ交ヘ多少ノ磁鐵鑛アリ、顯微鏡下ニ檢スレバ石英粒ノ外長石及斜

方輝石ノ散點セルヲ認ム、二百四尺ノ處ヨリハ木片ヲ出セ
リ

二百八尺五寸ヨリ二百十一尺五寸ニ至ル 黝色粘土ニシテ中
ニ豆大ノ礫ヲ交エ礫ヲナスモノハ主トシテ硅岩角岩ナリ雲
母片亦多ク散在ス

二百十一尺五寸ヨリ二百三十尺ニ至ル 黝色砂質粘土ニシテ
砂粒ヲナスモノハ上記岩石ノ粉末ト猶鏡下ニ實見シ得タル
モノニハ複色性强キ斜方輝石、石英、三斜長石アリ雲母片
並ニ磁鐵鑛ハ容易ニ認識スルヲ得ベシ、此間ニ二百二十二
尺ニ於テ白色絹糸狀ノ輕石小片ヲ檢出シ又下層ニ赴クニ從
ヒ砂ノ量漸次増加スルノ傾アリ

二百三十尺ヨリ二百三十八尺ニ至ル 上層トノ境ニ木片ヲ出
セリ二百四尺ノモノト同ク未ダ炭化セルニ至ラズ、本層
ヲナスモノハ清淨ナル小礫ニシテ粟粒大ヨリ豆大ノモノヲ
普通トシ其小ナルモノハ砂粒ヲナス此礫ヲナスモノハ又主
トシテ太古紀岩ニシテ硅岩角岩粘板岩、ラヂヲリア板岩
等ヨリ成ル

二百三十八尺ヨリ二百五十尺ニ至ル 少量ノ粘土質ト小礫ヲ
含有セル砂、之ヲ前者ニ比スレバ粘土質ヲ含有スルコト多
キノ差アルノミ

二百五十尺ヨリ二百五十八尺ニ至ル 砂質粘土、前者ニ比ス
レバ砂礫ノ量減シ粘土ノ量増加セルノ差アリ

二百五十八尺ヨリ二百七十四尺ニ至ル 砂質粘土、前者ニ比
スレバ砂礫ノ量稍少ナシ全体ニ微シク黃褐色ヲ帶ブ

二百七十四尺ヨリ二百八十三尺ニ至ル 褐色ニシテ少シク粘
土質ヲ帶ベル砂、其中ニ豆大ノ礫ヲ交ヘ主トシテ前記太古
紀岩石ノ碎片ヨリ成ル、砂粒ハ鏡下實驗ニ徴スルニ多量ノ
石英粒ト少量ノ長石ヲ有シ又斜方輝石磁鐵鑛白雲母ニ乏シ
カラズ

二百八十三尺ヨリ二百八十六尺ニ至ル 前者ニ比スレバ粘土
質ニ乏シク砂質ニ富ム、石英粒多ク上下ニ錐面發達セル完
全ナル結晶少ナカラズ唯纔ニ其稜ノ少シク磨滅セルヲ見ル
ノミ斯ノ如キ石英ハ石英斑岩流紋岩等ノ斑晶トシテ最モ多
ク現ハル、モノニシテ此等ノ岩石ハ關東平野ノ東北下野地
方ニ著ルシク發達セルモノナレバ或ハ此等ノ地方ヨリ流レ
來リタル砂粒ニアラザルカ

二百八十六尺ヨリ二百八十九尺ニ至ル 二百七十七尺ト同ク
少シク粘土質ヲ帶ベル砂ニシテ砂粒ハ主トシテ石英ヨリ
成リ太古紀岩ノ細片小礫ヲ交ユ、雲母片亦アリ

二百八十九尺ヨリ二百九十二尺ニ至ル 前者ニ比スレバ礫ノ

大サヲ増シ小豆大ノモノ多シ其他ノ性質相同シ

二百九十二尺ヨリ三百二十二尺ニ至ル 二百七十四尺ヨリ二百八十三尺ニ至ル間ノモノト等シク褐色ヲ有シ少量ノ粘土質ヲ帶ベル石英質ノ砂、中ニ小豆大ノ礫ヲ交ヘ又雲母片アリ

三百二十二尺ヨリ三百二十八尺ニ至ル 前者ニ比スレバ石英ノ砂粒大ニシテ米粒大ヲナシ又硅岩粘板岩等ノ穀粒大ノ粗砂ヲ交ユ、長石斜方輝石雲母片磁鐵鑛亦アリ

三百二十八尺ヨリ三百三十一尺ニ至ル 同上、微シク粘土質ヲ交ユ

三百三十一尺ヨリ三百三十七尺ニ至ル 石英質ノ細砂ニシテ兼テ前記ノ鑛物ヲ含ム

三百三十七尺ヨリ三百四十尺ニ至ル 前者ニ粘土質ヲ加ハレルモノ

三百四十尺ヨリ三百四十六尺ニ至ル 極メテ清淨細微ナル砂ナリ白色ニシテ微シク黝色ヲ帶ブ砂粒ハ主トシテ石英ヨリ成リ之ニ多少ノ斜長石斜方輝石白雲母及ヒ磁鐵鑛ヲ交ユ、

三百四十六尺ヨリ三百四十九尺ニ至ル 前者ト同シキモ少シク粘土質ヲ交ユ、之ヨリ以下ノ層多少ノ輕石小片ヲ交ユ

三百四十九尺ヨリ三百五十二尺ニ至ル 前者ノ如ク土質ヲ交

エズシテ清淨ナル細砂ヨリ成ル、三百四十尺附近ノモノニ等シ

三百五十二尺ヨリ三百五十五尺ニ至ル 前者ニ稍粘土質ヲ交ユ

三百五十五尺ヨリ三百六十一尺ニ至ル 粘土質ナキ清淨ナル細砂

三百六十一尺ヨリ三百七十九尺ニ至ル 少シク粘土質ヲ交ユル細微ノ砂、此中三百七十尺ヨリ三百七十三尺ノ間ハ粘土分比較的極メテ少シ

三百七十九尺ヨリ三百八十二尺ニ至ル 砂質粘土、砂量前者ノ如ク多カラズシテ著ルシク粘土質ヲ増ス

三百八十二尺ヨリ三百八十五尺ニ至ル 三百四十六尺以下ノモノニ等シク少シク粘土質ヲ有セル細砂

三百八十五尺ヨリ三百八十八尺ニ至ル 三百七十九尺ヨリ三百八十二尺ニ至ルモノト等シク此中ニ介殼ノ粉碎セルモノヲ含有セリ其何物タルヤ識別スルニ由ナシ

三百八十八尺ヨリ三百九十六尺ニ至ル 微シク粘土質ヲ交ユル細砂、三百三十一尺以下本層ニ至ルノ間主トシテ細砂ヨ

リ成リ時トシテハ清淨美麗ナルコトアリ時トシテ著ルシク粘土質ヲ交ユルコトアリ、要スルニ細砂ノ厚層ニシテ唯粘

土質ノ消長アルヲ見ルノミ肉眼的ニ白雲母ノ片々光ヲ放ツ
ヲ見ルベク鏡下ニ檢スレバ石英長石斜方輝石磁鐵鑛ヲ認ム
ベク輕石ノ小片亦少ナカラズ

三百九十六尺ヨリ四百二尺ニ至ル 砂質粘土

四百二尺ヨリ四百五尺ニ至ル 同上、化石ヲ含有スサレド大
抵粉蝕セラレ唯纔ニ極メテ微小ナル介殼ノ一二粘土中ニ介
在シ撈取サレ來リタルヲ得タルノミ、此等ノ中ヨリ檢出シ
タルモノ左ノ如シ

Dentalium entalis L.

Dentalium sp.

Limopsis sp.

Spondylus sp.?

Cerithium sp.?

四百五尺ヨリ四百八尺ニ至ル 砂質粘土、四百五尺ヨリ得タ
ル砂質粘土中ヨリハ數多ノ *Foraminifera* ノ殼ヲ檢出セリ
四百八尺ヨリ四百十三尺ニ至ル 砂質粘土、少量ノ礫ヲ交ユ
Cidaris ノ棘ヲ得タリ

四百十三尺ヨリ九百三十二尺ニ至ル 砂質粘土、前記三百九
十六尺ヨリ起リ九百三十二尺ニ至ル無慮五百三十六尺ノ間
ハ砂質粘土ノ厚層ニシテ主トシテ灰色粘土ヨリ成リ之ニ少

量ノ砂ヲ交ユ唯時トシテ砂ノ量少シク増加スルコトナキニ
アラズ四百二十尺ヨリ四百二十三尺ニ至ルノ間及ビ四百七
十尺ヨリ四百七十五尺ニ至ルノ間ニ於ケルガ如シ、サレド
概シテ一樣均齊ニ同一種ノ砂質粘土ヨリ斯ノ如キ厚層ヲチ
スモノアルハ本深井穿鑿ニ着手シテヨリ以來未ダ曾テ會シ
タルコトナキモノナリ今其深サヲ異ニセル各所ヨリ撈取セ
ル標品ニ就キ其中ニ含有セル砂粒ヲ檢スルニ石英、長石、
白雲母、磁鐵鑛、單斜及斜方輝石ヲ含有シ斜方輝石ノ如キ
ハ其稜角甚ダシク磨滅セズシテ鏡下ニ於テ能ク其晶形ヲ認
メ得ベキモノアリ(四百七十尺ヨリ得タルモノ、中ニアリ)
又鱗石英ノ六角形卓狀ノ小晶ヲ同シク四百七十尺ノ砂中ニ
檢出セリ、輕石ノ小片ハ上下ヲ通シテ孰レノ部分ニモ存在
シ白色絹光纖維狀ヲナシ鏡下ニ檢スレバ紡錘狀又ハ更ニ細
長ク延ビタル氣胞ニ富ミ瓦斯体包含物ヲ有セルモノ少ナカ
ラス概シテ新火山岩質ノ鑛物ニ乏シカラズ、八百二十尺ヨ
リハ介殼ノ欠片ヲ得タルモノ之ヲ鑑識スルニ由ナシ
九百三十二尺ヨリ九百六十尺ニ至ル 粘土、黝色ニシテ乾燥
セルトキハ微シク青色ヲ帶ブ其粘土ノ質ハ前者ト等シク唯
其砂質ノ著ルシシ減却セシモノト見テ可ナリ
九百六十尺ヨリ九百六十四尺ニ至ル 砂質粘土、前者ニ微シ

ク砂ノ交ハレルモノニ過ギズ

之ヨリ以下ハ粘土及砂質粘土ノ互層ニシテ其砂質粘土ト稱スルモノハ要スルニ粘土中ニ幾分ノ砂ヲ交ユルモノニシテ其砂ノ成分ハ前述セル砂質粘土ノ厚層中ニアルモノト同一ナレバ今爰ニ之ヲ再ビセズ

九百六十四尺ヨリ九百七十六尺ニ至ル 粘土

九百七十六尺ヨリ九百八十八尺ニ至ル 砂質粘土

九百八十八尺ヨリ一千尺ニ至ル 粘土、此層中九百八十四尺ニ

ハ輕石ノ存在稍著シ

一千尺ヨリ一千十六尺ニ至ル 砂質粘土

一千十六尺ヨリ一千三十六尺ニ至ル 粘土

一千三十六尺ヨリ一千六十尺ニ至ル 砂質粘土

一千六十尺ヨリ一千八十四尺ニ至ル 粘土

一千八十四尺ヨリ一千一百八尺ニ至ル 砂質粘土

一千一百八尺ヨリ一千一百二十二尺ニ至ル 細微ノ砂ニシテ石

英長石雲母磁鐵鑛及ヒ斜方輝石ヨリ成リ兼テ少量ノ粘土ヲ

交ユ

一千一百二十二尺ヨリ一千一百二十四尺ニ至ル 砂質粘土

一千一百二十四尺ヨリ一千一百六十四尺ニ至ル 粘土

一千一百六十四尺ヨリ一千一百六十六尺ニ至ル 暗褐色ノ粗

砂ニシテ少シク粘土質ヲ交エ又少シク褐鐵鑛ノ染潤アリ化石ノ碎片ヲ有シ纔ニ *Dentalium* sp. ヲ認識シ得タルノミ、此他數種ノ *Foraminifera* 遺殼ヲ檢出セリ

一千一百六十六尺ヨリ一千一百七十六尺ニ至ル 淡褐色砂質粘土

一千一百七十六尺ヨリ一千一百八十八尺ニ至ル 粘土質ヲ交ユ

ル細砂、即チ上層ノ淡褐色砂質粘土ト下層ノ細砂トノ間ニ遷移スル中間物ニ外ナラズ

一千一百八十八尺ヨリ一千二百八尺ニ至ル 極メテ細微ナル硅

石質ノ砂ニシテ一千一百八十四尺及一千一百九十二尺ノ附

近ニ於テ微ニ粘土質アリ砂粒ヲナスモノハ嘗テ上層ニ於テ

見タルモノト異ルコトナク長石中ニハ包含物ヲ有スル三斜

長石アリ輕石ノ小片亦之アリ

一千二百八尺ヨリ一千二百二十二尺ニ至ル 砂質粘土、此層ニ

次テ粘土層アリ、即チ本層ハ上下二層ノ遷移スルモノニシ

テ二者ノ混合物ヨリ成レリ

一千二百二十二尺ヨリ一千二百六十四尺ニ至ル 粘土、黝色ニ

シテ砂質全クナキニアラザレド其量極メテ僅微ナリ

一千二百六十四尺ヨリ一千二百七十六尺ニ至ル 粘土、少シ

ク砂ノ量加ハル、サレド砂質粘土ト稱スル程ニ至ラズ

一千二百七十六尺ヨリ一千三百三十六尺ニ至ル 粘土、前者ニ於ケル砂ノ量減シ其上層ノモノト相等シ

一千三百三十六尺ヨリ一千三百四十八尺ニ至ル 粘土、砂ノ量又微シク加ハレリ

今以上列擧シタル諸層ヲ通觀スルニ其最下層ヲナセルモノハ粘土ニシテ時ニ微量ノ細砂ヲ含有スルコトアルモ概シテ均齊ナル地質ニシテ其厚サ一百三十六尺ニ餘リ之ヨリ漸次細砂ノ層ニ移化シ凡ソ三十二尺許ノ砂層アリテ其上ニ二十一尺許ノ合砂粘土アリテ再ビ又砂層アリ本層ハ數種ノ *Foraminifera* 及ビ *Dentalium* ヲ含ミ以テ其深底ノ沈積物タルヲ知ルベシ之ヨリ以上ハ再ビ粘土ヲ沈積シ其間時ニ少量ノ砂ヲ交エ又細砂ノ薄層ヲ夾ムコトアリ、サレド要スルニ全体粘土質ノ厚層ニシテ其厚サ二百三十二尺ニ達セリ、更ニ其上層ヲナスモノハ本井開鑿以來未ダ曾テ見ザル厚層ニシテ全ク砂質粘土ヨリ成リ其厚サ無慮五百三十六尺ノ多キニ及ベリ全体ノ組織均齊ニシテ稍上部ニ赴クニ從ヒ所々少シク砂質ノ量ヲ増加スル所アリ本層ノ最上部ニハ化石ヲ産シ其數種ヲ鑑識スルヲ得タリ更ニ此層ヲ覆フテ其上部ニ位スルモノハ厚サ六十五尺許ナル細微ノ砂ノ層ニシテ粗砂ノ層(厚サ凡三十九尺)之ニ次キ更ニ移テ

砂粒一層粗ク小礫ノ層トナレリ、厚サ十六尺許ナル砂質粘土之ニ次ギ再ビ小礫ノ層ニ移レリ、其以上ノ地質ニ就キテハ附圖第一表並ニ第一回報告ニ就テ之ヲ知悉スルヲ得ベシ

斯ノ如ク本深井地帝國大學理科大學ノ地盤ヲ構造セル物質ヲ見ルニ其下層ハ主トシテ細微ノ物質即チ粘土質ヨリ成リ漸次上層ニ赴クニ從ヒ次第ニ粗トナリ遂ニ礫トナル換言スレバ最初深海性ノモノヲ沈積シ漸次淺海性ノモノニ移化セルノ事實アリ而シテ其下層ハ成層簡單ニシテ同一ノ物質非常ニ厚キ層ヲ造リ上層ニ赴クニ從ヒ複雜ニシテ異種ノ層ノ相重リ其厚サ又厚カラズ殊ニ二百七十尺附近ヨリ以上地表ニ到ルノ間ハ一層ノ厚サ最モ厚キモノニシテ三十尺ニ過ズ薄キモノハ二尺ニ出デズ其變化亦急激ニシテ要スルニ此等地層成生ノ初期ニアリテハ長時期ヲ要シ緩慢ニ規則正シク沈積シ後期ニ到ルニ從ヒ地殼ノ變動稍不規則ニ且頻繁トナリ昨ノ淵ハ今ノ瀨トナリ次テ又淵トナリ異種ノ物質交モ薄層ヲナシテ堆積セル者タルヲ知ルル顧テ此等ノ岩石ヲナセル物質ヲ見ルニ其砂礫ハ主トシテ太古紀ノ岩石タル粘板岩、硅岩、角岩等ノ粉末トナレル者ニシテ之ニ加フルニ許多ノ火山噴出物アリ即チ輕石ヲ始メトシ火山岩ノ主成分タル斜長石、斜方輝石、磁鐵鑛ヲ認識スルヲ得ベシ此等ノ岩石鑛物ノ由來ニ就テハ第一回報告ニ審ナレバ今爰ニ之ヲ贅セズ

今回接手セル此岩石ノ性質並ニ此中ヨリ得タル化石ニヨレバ本層ハ前回鑑識セシモノト等シク第三紀層ニ屬シ其化石ノ標本十分ナラザレド想フニ前回ノモノト等シク所謂最新層（フリテセン）ニ屬スルモノナルヘシ

他所トノ比較

予ハ第一回報告ニ於テ深井開穿地ト其附近ノ地ニ於ケル地表下若干距離ノ地層ヲ比較シ其上層ニハ洪積層ヲ戴キ下層ニハ第三紀フリテセン層アリテ地下凡五十尺許ノ間ハ大抵各所同一ナルモ稍深ク下ルニ從テ本郷ヨリ稍隔リタル洲崎向島石川島芝浦等ニ於テ曾テ施シタル鑿井ノ結果ト符合セスシテ各所累層ノ順序ヲ異ニセル事實アルヲ述ベタリキ、今ヤ深井穿鑿ノ工ハ大ニ其步ヲ進メテ予ガ接手セシ最后ノ標本ハ一千三百四十八尺ニ至リ東京附近ニ於テ之ト比敵スヘキ深井ナク十分ノ比較ヲ試ムル能ハサルモ曾テ明治二十年ノ頃深川區清住町岩崎男爵ノ邸内ニ於テ純良ナル飲料水ヲ得シカ爲メ井ヲ鑿チ遂ニ地表下一百間半即六百五尺ノ深處ニ達セルモノアリ幸ニシテ其一百二十六尺以下ノ地層ニ關スル記事ハ理科大学地質學教室ニ存在セルモノアリテ其錄スル所地質學上ノ記事ニ乏シキモ猶以テ參考ニ資スベキモノアレバ左ニ之ヲ抄録シテ尋

テ兩地ノ地質ニ就キ比較ヲ試ムベシ

○深川岩崎男爵邸井戸地層

- 自二十間至二十四間 大粒砂利
- 自二十四間至二十五間五尺 砂、荒砂ニシテ上端へ九尺大粒砂利ニ接シタル分ハ砂利及砂混合セリ色ハ川砂ノ如シ
- 自二十五間五尺至二十八間 青「ヘナ」
- 自二十八間至三十間 砂、中砂ニシテ上端へ四尺青「ヘナ」へ接シタル分ハ小砂、色ハ青ナリ
- 自三十間至三十七間 小粒砂利
- 自三十七間至三十九間 砂、荒目ニシテ白色ト並通川砂トノ交リナリ
- 自三十九間至四十一間 中粒砂利
- 自四十一間至四十五間 砂、中砂ニシテ上端へ二間中砂利へ接シタル分ハ砂利、砂交リナリ色ハ白ナリ（介殼アリ又帶水層ナリシト云フ）
- 自四十五間至四十五間五尺 青「ヘナ」
- 自四十五間五尺至六十四間 砂、中砂ニシテ上端へ七ト青三トナリ
- 自六十四間至七十間 砂土、コシマ、此小シマノ砂ハ中目ナリ
- 自七十間至七十一間四尺 砂、中砂ニシテ上端へ七ト青三トナリ
- 自七十一間四尺至九十一間 砂土、小シマ、此小シマノ砂ハ中

目ナリ土ハ青色ナリ

自九十一間至一百間五尺 青「ヘナ」

今以上ノ材料ニ基キ本郷深川兩地ニ於ケル地下凡百二十尺以下ノ地層ヲ比較センガ爲メ予ハ第二表ヲ作レリ予ハ本表ヲ作ルニ當リ精細ニ兩者ノ層位ヲ比較センガ爲メ兩者ノ絕對高度ヲ求メテ之ヲ比較セリ（絕對高度トハ海面水準ヨリ垂直距離ニシテ水準以上ヲ正トシ水準以下ヲ負トス）是レ曩ニ述ベ來リタル兩者ノ深サハ共ニ其井口地表ヨリノ距離ナレバ直ニ此尺度ノ數ヲ以テ兩者ヲ比較スルハ正鵠ヲ失スルノ嫌ナキニアラザレバナリ

本郷深井ノ井口ハ精密ナル測量ニヨレバ靈岸嶋平均水位ヨリ高キコト四十尺四五六ニ位シ深川ノ井口ハ約七尺ニアリ故ニ兩者ノ深サヨリ各此數ヲ減シ其絕對高度ヲ求メ其數ニヨリ兩者ヲ比較セリ即チ第二表ニ於テ中央ニ縱記セルハ即其絕對高度ノ數ニシテ兩側ニ記スルハ各井ニ於ケル地表以下ノ深サナリ

今本表ニヨリ兩者ヲ比較スルニ大体ニ於テ兩者互ニ相類似セル所アリ其最下層ヲナシテ本郷ハ砂質粘土ノ厚層アリ深川ハ其最下ニ「青ヘナ」アリテ其上部ニ砂土小「シマ」アリ共ニ其標本ヲ見タルニアラザレバ確言スル能ハザルモ砂土小「シマ」ハ

砂質粘土ト殆ド相等シカルベク青「ヘナ」ハ純粹ノ粘土ナルヤ或ハ本郷ニ於ケルガ如ク若干ノ砂質ヲ含有セルモノナルヤ今之ヲ知ルニ由ナシト雖要スルニ二者共ニ負三百七十尺附近ヨリ以下ハ砂ト粘土ト混合セルモノ、厚層ニシテ時ニ砂質ニ富ミテ薄キ砂層ヲ造ル迄ニ至レル所アリ此含砂粘土ヲ蔽テ負三百七十尺附近ヨリ負二百五十尺附近ニ及ビ約百二十尺ノ間砂ノ厚層アリ兩所共ニ少シク粘土質ヲ含ム所アリ之ニ尋テ小礫ノ層アリ粗砂ト相混シ本郷ニ於テハ少量ノ粘土質ヲ交ユル所アリ本層モ亦相應ニ厚クシテ負二百五十尺附近ヨリ負百七十尺附近ニ及ビ約八十尺ノ厚サアリ之ヨリ以上ハ兩所共ニ同一ノ累層ヲ見ルニ其層概シテ薄ク且兩所ノ層ノ厚サ比較の著ルシキ差アルヲ見ル、想フニ深川ニアリテモ猶向嶋中洲石川嶋等ニ於ケルガ如ク其上層ニ趣クニ從ヒ其厚サ厚カラザル異種ノ累層ヲ有スルモノアラフ、之ヲ要スルニ本郷、深川兩所ニ於テ其下部ハ比較的甚タ能ク類似シ其各層水準モ最多キモノニシテ二十尺許ノ差異ヲ有セルノミニシテ本郷深川間直徑約一里七町ヲ距タル所ニアリテ此ノ如キ數ハ比較的僅少ノ差數ト云フベシ

比較ノ材料僅少ニシテ十分ノ斷言ヲナス能ハズト雖東京附近地下ノ地層ハ其下層ニアリテハ同一ノ岩石厚層ヲナシテ廣ク

擴布セラレ、其上層ハ異種ノ累層薄層ヲナシテ相重レルノ事實アリ而シテ、千三百有余尺ノ深處ニ於テ、猶比較的柔軟ナル第三紀ノ粘土又ハ砂ノ層ヨリ成リ未ダ堅硬ナル岩石ノ層ニ會セザルナリ

帶水層ノ位置ニ就キテハ第一回報告ニ於テ述ベタル如ク唯理論上之ヲ推知スルヲ得ルナリ即チ本井ニ於テハ二百八尺及二百五十八尺附近ニ於テ砂質粘土ヲ蔽ヘル砂礫層ハ蓋シ帶水層ニシテ三百八十尺ニ於テ細砂ノ砂質粘土ニ移化スル邊ニ於テモ亦多少ノ水ヲ湛ユルモノアラシ遙ニ下テ一千二百尺附近ニ於ケル砂層亦然ラン、要スルニ本井ノ大部分ハ砂質粘土又ハ粘土ノ厚層アリテ地下水ノ浸潤ニ不利ナルノ點多ク畢竟スルニ深川井ニ於テ二百七十尺附近ニ帶水層ヲ得タルノ外ハ深處ニ進ムモ更ニ良水ヲ得ザリシト稱スルモノ實ニ此砂質粘土ノ厚層ニ會シタルニ職由スルナリ

第壹表續

*

600
604
608
612
616
620
624
628
632
636
640
644
648
652
656
660
664
668
672
676
680
684
688
692
696
700

砂
質
粘
土

700
704
708
712
716
720
724
728
732
736
740
744
748
752
756
760
764
768
772
776
780
784
788
792
796
800

砂
質
粘
土

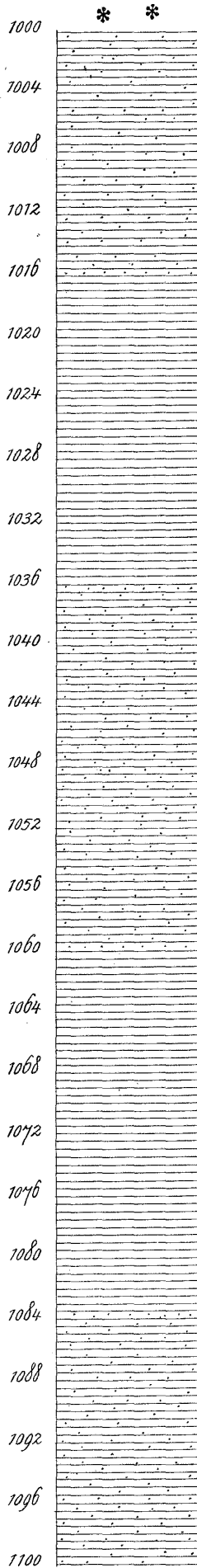
800
804
808
812
816
820
824
828
832
836
840
844
848
852
856
860
864
868
872
876
880
884
888
892
896
900

砂
質
粘
土

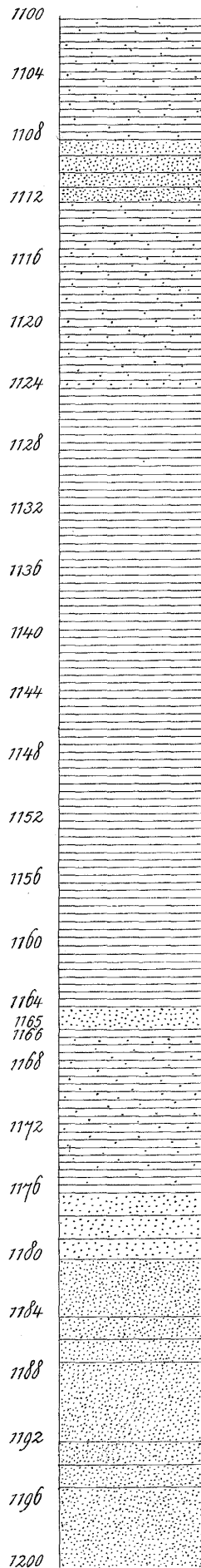
900
904
908
912
916
920
924
928
932
936
940
944
948
952
956
960
964
968
972
976
980
984
988
992
996
1000

粘
土

第壹表 續キ



粘土

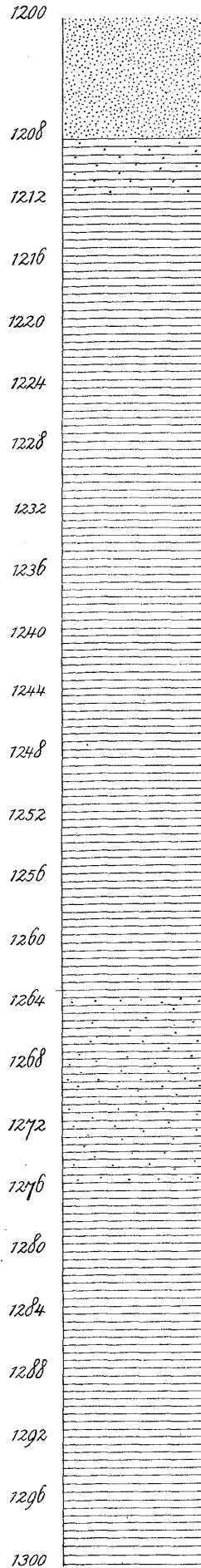


砂質粘土

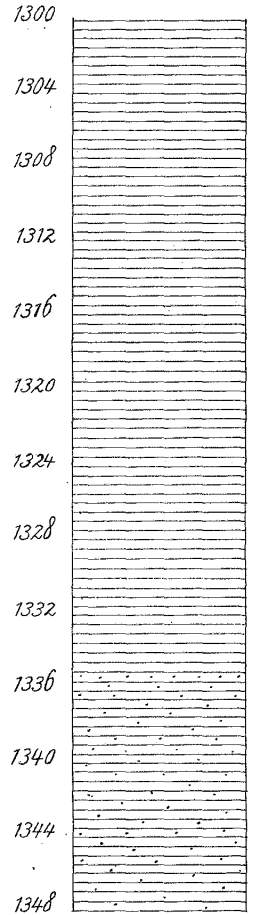
粘土

化石アリ

砂



粘土



粘土

